



みらいっうしん

12月号

2023年12月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦 芳子



思いを尊重して

寒暖差の激しい師走を迎えております。乾燥で喉を傷めたり、鼻水や高熱を出したりと体調を崩している方がとても多くなっております。園内では、換気、うがい、手洗いを徹底し感染対策を行って参りますがご家庭でも、体調管理に努めてくださいますようお願いいたします。

さて、最近の子ども達は、好きな場所や遊びを見つけては、楽しみ方を個々に工夫しています。友達との関わりも多くなり、遊びの内容も単純なものから複雑なものに発展させるなど、とことん遊びに熱中している場面が多く見られるようになりました。その反面、子どもは、夢中になりすぎると、周囲の状況をイメージすることや先を見通すことがまだまだ難しく、危険なことを面白がったり、時には、人に迷惑をかけてしまったりすることもあります。楽しい気持ちややってみようという意欲は大切にしつつ、「楽しければ何をしてもよい」ではなく、集団生活でのルールや決まりごとの規範意識の教育は、周りの大人が、その都度丁寧に伝えることが肝要です。見守りと放任は紙一重ですが、今後の子どもの成長にとっては、大きく影響がでてきますので、私たち職員も、子どもたちの気持ちに寄り添い、丁寧に対応していきたいと思っております。

ところで、11月の初旬から、幼児クラスは、「ワクワクげきじょう」に向けて、日頃の遊びから身についた知恵や行動を基に、今、子ども達は何に興味関心を持っているのかを保護者の皆様に伝えられるように「発表する」ということも考えながら、活動の意識付けを行っています。

特に、にじ組さんは、「ワクワクげきじょう」で、本園の集大成を発表する機会にもなりますが、何を行いたいのか、みんなで1つの劇を行うというイメージがなかなか沸かず、何回も担任と一緒に話し合う場面もありました。その甲斐あって、子どもたちが納得して準備が始まると、いろいろな意見が出始め、友達とアイデアを出し合い、今では、自分の役を完成させるために、夢中になって準備をしています。みんなで、気持ちを合わせて、1つの物語を作り上げるのは、子ども達にとって並大抵のことではありませんが、保育者の励ましや一人一人の努力で、日に日に上達が見られました。この様子を見て、一人一人が胸を張って自己表現することは、相手の気持ちを知ることに繋がり、相手の思いも理解できるようになります。友達と関わることは、お互いを思いやれる気持ちが芽生えるのだと改めて、自己表現の大切さを感じました。きっと、ワクワクげきじょうでも、子ども達の意欲が形として表現できることと、今からとても楽しみです。にじ組さんは、衣装や小道具にも、個性豊かな工夫が見られますので、是非ご覧ください。ほし組さんそら組さんも、クラスごと、今までの遊びや園生活で学んだ成果を発表できると思っておりますので、保護者の皆様も楽しみにしてください。

今年も残り1ヶ月余りとなりました。子ども達は、普段の園生活でお互いを認め合い、楽しく笑顔で過ごすことで、共に逞しく成長しています。先日、中学生が、職業体験で、みらいこども園に2日間生活を共にしましたが、「子どもたちのパワーってすごいですね。大変でした。」と圧倒されていました。私たち保育者も、子ども達の安全を第一に考え、一人一人の特性をよく考えて、教育・保育に努めて参ります。今後も、みらいこども園の方針をご理解していただき、ご協力をお願いいたします。

一人ひとり、考えながら…
衣装や大道具作り



観劇後、にじ組さんより劇団
さんにお礼のプレゼント

